

目次

まえがき

凡例

第一章 鞭牛（べんぎゆう）の道 — 二〇一一年東日本大震災 — …………… 1

穿入蛇行と洪水 2

鞭牛の道供養塔 6

拓いた道を維持する 12

仮令従御上被仰付候而（たとえ御上よりお仰せつけられそうろうとも） 17

第二章 火と水と台地の窪と — 一九二三年関東大震災 — …………… 21

岡本綺堂と麴町の火災 22

燃え広がる炎と、風、断水 25

台地と地下水 29

台地の窪と小川 — 漱石が見た情景 — 31

台地の地下水位 — お菊の井戸 — 36

窪での半地下構造物の浮き上がり 38

窪地下に構築された空間への砂の流出 41

台地の地下水に向き合う 45

第三章 炭鉱と温泉と断層と — 二〇一一年福島県浜通り地震 — 49

常磐炭田と断層 50

斜陽化する炭鉱業、ハワイアンズ、そして地震 52

断層上のメモリアルスタジアム 57

断層上の構造物の動き 61

鉱山跡地での思いがけない被害 65

第四章 巨礫、地震断層、そしてトンネル — 一九七八年伊豆大島近海地震、一九九八年岩手県内陸北部地震 — 71

伊豆石と稲取 72

稲取背面の山々 74

稲取を襲った一九七八年の地震とトンネル 77

	不幸中の幸い? — 得られた教訓 —	83
	巨礫を含む地盤と断層	86
	巨礫の堆積する耕作困難地	91
第五章	繰り返す洪水 — 一八四七年善光寺地震、令和元年東日本台風 —	95
	善光寺地震と土石流	96
	延徳沖で繰り返された洪水	103
	水没した新幹線車両基地	108
第六章	火山斜面の崩壊 — 二〇〇八年岩手宮城内陸地震 —	115
	噴火と火山泥流	116
	三浦綾子が描いた融雪型土石流	119
	岩手宮城内陸地震と土砂災害	121
	痕跡から読み解く崩壊土砂の速度	128
第七章	剥き出しになった赤と白の土 — 二〇〇五年カシミール地震 —	137
	長期に及ぶ地盤変形	138

第八章

赤色の山の土砂災害 140
白色の山の土砂災害 147
長期にわたる課題 151

歌川広重が『東海道五十三次』に描いた地震痕跡（その一） | 「平塚」・「大磯」 |

広重が見た景色 160

「平塚」 161

「大磯」 163

関東大震災と「平塚」「大磯」 167

『名所江戸百景』 177

第九章 歌川広重が『東海道五十三次』に描いた地震痕跡（その二） | 「原」・「吉原」 |

「原」 182

「吉原」 186

181

159

	富士川河口断層帯と安政元年安政東海地震	189
	土木構造物の対応	194
第十章	繰り返される地盤変形 — 二〇〇七年と二〇二四年、二つの能登半島地震 —	201
	能登言葉と北前船	202
	北前船の寄港地、黒島	203
	黒島の地盤隆起	206
	門前町道下（もんぜんまちとうげ）の地震被害	208
	「のと里山海道」の盛土被害	213
	ライフラインの復旧戦略	217
	地域復興の道筋は？	219
第十一章	地震後長期に及ぶ地盤変形 — 享保能登地震と二〇二四年能登半島地震 —	227
	御収納御蔵の移設	228
	地震後も継続する地形変形	230

